

2008年度 履修要項

桃山学院大学

3. 共通基礎科目

(1) 世界市民科目

本学において学び教えるすべての人々は、建学の理念を常に自覚し、本学のアイデンティティを創り出し、有意義なキャンパス・ライフを送ることが求められています。世界市民科目が全学共通の必修科目に位置づけられているのはそのためです。

「世界の市民」に必要な基礎知識は、以下のとおりに人類愛の精神やグローバルな視野の育成につながるものでなければなりません。

第1に、建学の理念に謳われているキリスト教精神の根本を理解することが、「世界の市民」には望まれます。

第2に、人権問題についての正確な知識と人権尊重の意識が、「世界の市民」にとって不可欠な条件です。

第3に、グローバルな視野を養成するためには、多様な問題に関わる世界事情についての正確な知識の習得が「世界の市民」には必須となります。

したがって、世界市民科目には、以下の講義が設けてあります。

1. キリスト教の歴史と現在についての認識を踏まえつつ、その根本的精神の理解を促進することを目的とする講義
2. 人類が確立してきた人権の重要性を学ぶことによって、「世界の市民」に求められる基礎知識と基本態度の鍛錬を目的とする講義
3. 担当する本学専任教員が自らの専門的研究内容に関わる世界事情を解説し、グローバルな視野とは何かを学び取ることを目的とする講義
4. 担当する本学専任教員が自らの専門的研究内容と「世界の市民」との関連を探究する講義

(2) 外国語科目

国際化の進展にともない、コミュニケーションの手段としての外国語の必要性がますます増大しています。基本的には、外国語を「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」といった多様なコミュニケーション能力です。本学の外国語教育はこれらの諸能力のバランスのとれた育成に重点を置いています。

さらに、より高度な国際・異文化間コミュニケーションを実現するには、自文化と異文化への深い理解が必要です。この観点に立ち、世界市民としてのコミュニケーション能力の向上を目指しています。

本学の外国語科目には、「英語」と「コース中国語」があります。経済学部 経済学科中国ビジネスキャリアコース生を除く本学学生は共通基礎科目として「英語」を、経済学部 経済学科中国ビジネスキャリアコース生は「コース中国語」を履修します。英語の授業内容は以下のとおりです。

英語ⅠA 「読む」、「聞く」といった受容的技能 (receptive skills) を中心に、コミュニケーションの手段としての実践的な英語運用能力を高める。

英語ⅠB 「書く」、「話す」といった産出的技能 (productive skills) を中心に、コミュニケーションの手段としての実践的な英語運用能力を高める。

英語ⅡA 英語ⅠAに続き、受容的技能を中心にコミュニケーション能力を高める。

英語ⅡB 英語ⅠBに続き、産出的技能を中心にコミュニケーション能力を高める。

英語ⅢA 受容的技能を中心に、英語ⅠA・ⅡAより複雑かつ長い英文をより精確に理解することを目指す。

英語ⅢB 産出的技能を中心に、英語ⅠB・ⅡBより複雑かつ長い表現をより正確に作ることを目指す。

英語ⅣA 英語ⅢAに続き、より複雑かつ長い英文をより精確に理解することを目指す。

英語ⅣB 英語ⅢBに続き、より複雑かつ長い表現をより正確に作ることを目指す。

なお、外国語科目としては、共通自由科目として履修できる初修外国語があります。初修外国語には「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「イタリア語」、「ロシア語」、「中国語」、「朝鮮語」、「インドネシア語」および「日本語」があります。「日本語」は外国人留学生および海外帰国生のみを対象とする外国語科目です。なお、国際教養学部は初修外国語を学科必修科目、及び学科自由科目として履修することができますが、共通自由科目としては履修できません。

4. 共通教養科目

共通教養科目は、以下の科目構成により、幅広く深い教養を培い、強靱な知性及び身体を養うこと、ならびに総合的な判断力や批判力を涵養することを目的としています。

1. 社会の根本的な仕組みを解明する
2. 人間の知的営みの深みを探求する
3. 自然界を捉える視点を養う
4. 自分自身の身体性に気づく

そして、その具体的な科目区分は以下のとおりです。

1. 人文・社会・自然の基本的な個別専門科学
2. 健康・スポーツ学（講義と演習）
3. 個別分野を超えた学際科目
4. 先端分野に触れるため、あるいは教養の視点から高校までの学習を見直すための共通教養特別講義

共通教養科目のすべての科目は全学部・学科生とも第1年次から履修することができます。そして、「健康・スポーツ学演習」（週1回／半期／2単位）以外は講義科目であり、一部科目を除き完全セメスター制（週2回／半期／4単位）による効果的学習がはかられています。

それぞれの科目において、個別学問分野の成果が、高度産業社会に生きる現代人の基本的教養にふさわしい内容として、明解に提示され、どの科目を履修しても、その個別学問分野の体系的な内容が把握でき、なおかつ、広く教養の見地に立った学問的営みの面白さと奥深さを味わうことができます。